

中間とりまとめに対するコメント

2013.05.27

宇宙輸送システム部会 臨時委員 緒川 修治

第6回部会へ出席できないため、議論予定の“中間とりまとめ(案)”に対して、コメントします。

1. “我が国”の定義

文書中に“我が国”との表記が散見されるが、これは“国家/政府”と“(国による産業振興の結果生じる/生じた)国内企業”と2つと解釈して良いか?、或いは、国家/政府のみを指しているのか? 解釈を誤りかねないので、明確な記述を求める。

商業化が進んでいる以上、宇宙輸送システムは、官民2つの取り扱い主体が存在する前提で議論されるべきと考える。

2. “宇宙利用の拡大”の観点が外れている

宇宙基本計画に示されている“宇宙利用の拡大”について触れられていない。(自律性確保のために、自国でロケットを保有することに対する記述に終始している)基幹ロケットを刷新することは必要だが、それだけでは既存市場のマスを増やすには至らない(拡大に繋がらない)。もっと宇宙利用の拡大、市場創造(創出)に対し、積極的な政策を講じる記述があるべきである。

具体的には、5. 我が国が宇宙輸送システムを保有する意義 に、下線部追加と修正すべきと考える。

“我が国が宇宙輸送システムを保有する意義は、宇宙開発利用の拡大と自律性を確保する上で不可欠であることに加えから、以下のような観点が挙げられる。”

(4) 幅広いニーズへの対応

宇宙利用の促進、拡大を図るため、ラインナップに能力や価格の幅を持たせ、利用側の選択範囲を広げると共に、新しい利活用に応える柔軟性を有すること。

3. 基幹ロケットの開発責任

6. (4) 新たな基幹ロケット開発の要件として、各者の役割が定義されているが、基幹ロケットは、国費を投じて開発されるものであるにも拘わらず、開発責任が製造委託先の民間にあるのは疑問を感じる。(基幹ロケットと、新たな潮流となりつつある民間商業ロケットは趣旨が違う)

効率的な開発体制へ見直す必要はあるが、責任区分は従来どおりで、実施事項の見直しをするべきである。以下に実施事項の区分けを提案する。

政府 “実用システムの開発、運用として位置づけることから” … 記述不要

JAXA 仕様提示、開発(技術)検証、主要技術の管理・蓄積 ※開発責任

民間 設計、製造、打ち上げ ※製造責任

以上